

熊本県の西原村立河原小学校 倉原（くらはら）先生からMEXCBTの利活用についてお話を伺いました。

河原小学校は全校生徒69名の小さな学校ですが、児童一人一人に目が行き届いた細やかな指導を心がけられているそうです。なぜ、MEXCBTを使って問題を作成しようとしたのか、MEXCBTを使ってみての児童や教員の反応等についてお話いただきました。

■ ■ ■ 学校HPのURL <https://es.higo.ed.jp/kawahara/> ■ ■ ■

1. なぜ、MEXCBTを使って問題を作成しようとしたのか経緯を教えてください。

令和4年度教育課程実践検証協力校E-assessmentに関する国語の協力校となり、校内でプロジェクトチームを立ち上げ、国語科問題の作成に取り組むこととなりました。

2. 問題を作成する際に、工夫した点、苦労した点、感想等があったら教えてください。

問題文に著作物を利用する場合は著作権者への許諾が必要となるため、題材選びに苦労しました。村の観光協会や店舗にご協力いただき名産品等の紹介文を作成することで、著作権問題を解決するとともに身近な題材を扱うことで子供たちにとっても親しみやすい問題となりました。また、MEXCBTに縦書き表記の機能が備わっていないため※1、問題文をPDF形式に加工して取り込み表示しました。

問題を作成することで、子供たちに力を身に付けさせたい力の明確化や、単元全体を見通した教材研究を進めることの重要性について改めて考えるよい機会となり、指導力向上にもつながったように感じています。

3. 独自作成問題を解いた際の子供たちの反応を教えてください。

本校では、普段から授業でICT端末を使っているため、子供たちはMEXCBTにもすぐに慣れ使えるようになりました。独自作成問題では、身近な題材を使用したことにより意欲的に取り組むことができていました。自動採点により結果がすぐに分かるため、自分の結果や状況に応じて次の課題に取り組むことができていたようです。

4. MEXCBTを使ってみての児童、先生方の反応を教えてください。

【児童】

- ・ **すぐに結果が分かる**ので、自分の力を確認しやすいです。
- ・ 苦手分野の復習などで、**自宅でも**取り組むことができて便利でした。

【教員】

- ・ 子供たちが、教師の想像以上に**簡単に使いこなしている**ことに驚きました。
- ・ すぐに結果がわかり、**児童の学力の定着状況を把握できる**ことは大きな利点です。
- ・ ヘッドセット等の整備に伴い、**さらに問題作成の幅が広がる**と期待できます。

5. 今後、こんな活用をしてみたい、文科省へのご要望等※2ございましたら教えてください。

既存の掲載問題の活用も進めていますが、問題数の増加により使いたい問題の検索が難しくなっています。単元ごとに問題を掲載する等、検索が簡単になるとありがたいです。

人気のかわらそば
山口県発祥の「かわらそば」が食べられる河原で人気のお店。お庭には小川が流れ、いっくん開気の中で食事ができます。熱せられたかわらの上には、茶そばがしかれ、シチューと音を立て、見た目ともにはく力満点です。もちもちしためんは、熱々のかわらで焼けてハリハリめんに変化するのが特徴の一つです。そのめんをそばつゆに付けて食べるしゅん間は最高です。牛肉、山菜、きのこの三種のトッピングがあります。山菜は、その時期に地元でとれた食材を使用しています。お好みでレモンやみじおろしを入れると風味が変わります。つとさらにおいしさが増します。



名産品（人気のかわらそば）の紹介文



問題に取り組む児童の様子

※1 縦書き表記機能については、令和4年度内に順次実装できるよう、現在、準備を進めております。

※2 文部科学省では、いただいたご意見やご要望を参考に、順次、MEXCBTの改善を進めています。